

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福岡市 早良南地域交流センター	階数	地上4F
建設地	福岡市早良区四箇田団地15番13号	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用、第一種15	平均居住人員	900 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,800 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年1月20日
敷地面積	10,797 m ²	作成者	市川大輔
建築面積	2,642 m ²	確認日	2020年1月20日
延床面積	5,183 m ²	確認者	吉田俊文



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 78% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 78%

④上記+: 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.3

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 室内観協では良好な空気質を維持することが可能。利用者へ快適な空間の提供を目指している。防汚性の高い建材の使用や清掃員控室やゴミ庫の設置をし維持管理機能の確保に努めている。様々な緑地管理にて生物環境の保全に貢献している。		その他 特に無し
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の建材を使用すること、施設全体を禁煙とすることで空気環境に配慮がなされている。室面積の1/15以上の開口部を設けており良好な空気環境の維持が可能な計画としている。	Q2 サービス性能 天井高を高くし内装計画を行うことで快適な空間造りに努めている。防汚性の高い建材を使用している。清掃員控室やゴミ庫の設置、掃除の際に十分な照度を確保し維持管理機能の確保を行っている。個別空調かつ自立運転可能な設備および飲料水・雑用水の確保を計画し災害時に建物の機能を維持するための対策を行っている。	Q3 室外環境(敷地内) 外来種への対応、自生種の保全、植栽条件に応じた緑地管理に生物環境の保全に大きく貢献している。緑化率20%を確保し、緑の量と質を確保した計画としている。
LR1 エネルギー 設備システムの高効率化を行い、[BEI]([BEI m])=0.68を達成した計画としている。簡易BEMSの採用により部門ごとのエネルギー使用量の把握が可能な計画としている。	LR2 資源・マテリアル 超節水型器具の設置や擬音装置の設置、雨水利用により節水率(上水代替率)25%以上とし、水資源の保護をしている。高炉セメントやフローリング、木毛セメント板、ビニル系床材などのリサイクル材を活用している。	LR3 敷地外環境 駐車場の確保、駐輪場の確保、荷捌き場の確保を行い交通負荷を抑制する。ゴミ庫の設置、ゴミの種類や量を推計、有価物の回収計画を行い廃棄物処理負荷を抑制する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される